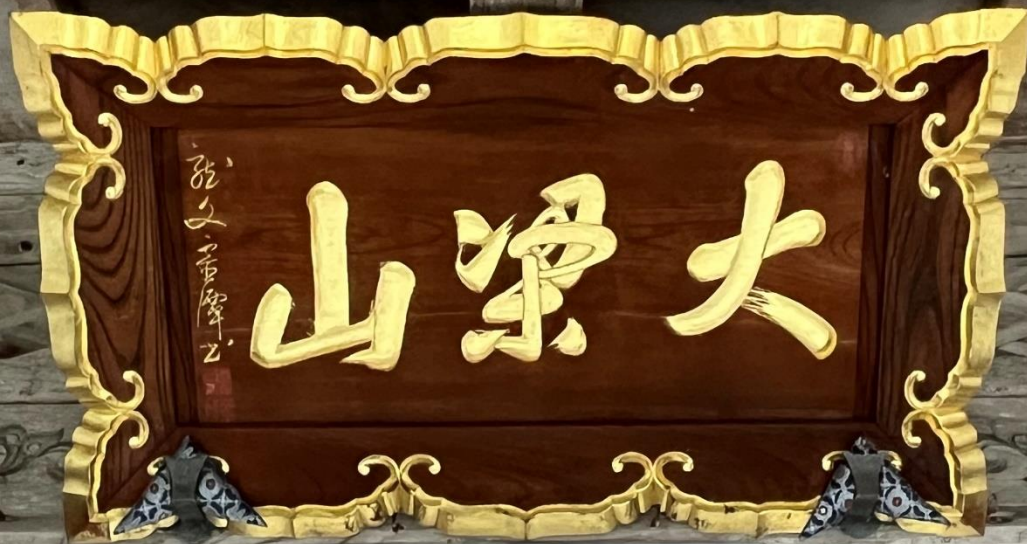


清元院だより

縁をつなぎ 安心をとどけるお寺



※靈潭魯龍 和尚

第19号

山号額「大梁山」の2つの謎

清元院の山門には「大梁山」(だいらようざん)と力強く書かれた額が掛かっています。清元院の正しい名前は大梁山清元院です。

中国でお寺が増えた時期には、同じ名前のお寺も多く、区別するため、山に建てられたお寺には、お寺の名前の前にその山の名をつけるようになったのが山号の始まりです。日本の禅宗寺院では、平地にあるお寺にも山号をつけるようになりました。

▼謎①…清元院の山号「大梁山」は、お寺ができた600年前に付けられたものですが、その由来ははっきりしません。文字から想像すると、寺を建てた時に大きな梁(はり)天井裏にわたしてある横木)を用いていたからかもしれません。木材が豊富な以西ですからあながち間違いではないでしょう。

▼謎②…山号額の力強い字を書いたのは、江戸時代後期に「曹洞宗の四天王」と呼ばれ、江戸・神奈川・京都の名刹の住職を歴任した名僧「靈潭魯龍」(れいたんろりゅう…1746～1805)です。額に「龍文靈潭書」と名が記されていて、寛政12年(1800年)から4年間、山口県龍文寺の住職を勤めていた時に書いたものであることが分かります。当時の清元院住職は8世…天瑞玄高和尚(因幡の国出身)ですが、龍文寺・靈潭魯龍和尚・清元院の関係は不明です。私の想像では、靈潭魯龍和尚は現在の兵庫県新温泉町の出身ですから、因幡出身の8世と互いに縁のあったどこかのお寺で大法要があった際に出会い、意気投合し、8世和尚に頼まれてその場で靈潭魯龍和尚が一気に紙に書き上げた…と勝手に想像しています。みなさんも山門の山号額を見上げて、二つの謎に思いを馳せてみてください。



心が伝わる葬儀を目指して
黒住教を学びに行ってきました
活動紹介⑤・声・のんのんさま④
ホームページ開きました
イベント情報・お知らせ等

発行…曹洞宗大梁山清元院住職 井上英之
佛歴二五六五年 令和四年十二月二十五日

■日本海新聞「潮流」のコーナーに、令和4年7月から月1回、計12回の連載を執筆中です。

今回は第6回目(12月9日金曜日)掲載分を紹介します。

日本海新聞

(第3種郵便物認可)

gakugei@nnn.co.jp

「葬儀の主役は誰ですか？」と尋ねられたら、私は「故人と参列者のみなさんです」と答えます。故人と参列者が、心を伝え合うことが、葬儀で一番大切なことだと思うからです。

私は、父である先代住職が亡くなったあと住職になりました。初めは父が行っていた葬儀(曹洞宗)を忠実に再現することに頑張りました。親戚や知人の葬儀にも可能な限り参列して、宗派を超えて葬儀を学ぶようにしました。

ある葬儀に参列していた時、何人かの参列者が居眠りを始めました。実は大変失礼なことですが、その時私も居眠りをしてしまいました。お母さんを亡くした友人の悲しみに寄り添いたいと思って参列したにもかかわらず、他宗派の葬儀だったため、作法や内容が分からず途中で退屈になってしまったからです。

その時に「ハッ」としました。私が勤める葬儀でも同じことが起こっているかもしれない。私自身は故人のために精いっぱい勤めているつもりでも、授業に例えるなら、先生が生徒の方を振り返ることなく、ひたすら黒板にだけ向かって進める授業と同じ葬儀をしているのかもしれないと気付いたからです。

それからは、「参加」と「説明」をキーワードに、枕経、お通夜、葬儀の進め方の全てを見直ししました。例えば、①お勤めをする「前」には、故人と参列者をつなぐ法話

心が伝わる葬儀を目指して

～キーワードは「参加」と「説明」～

清元院住職

井上 英之



を行う②式の流れ・作法・お経を説明した冊子を配布して、参列者全員で力を合わせて葬儀を行う③戒名に込めた故人の人生や仏としての願いを解説した紙を全員に配布して説明する④焼香では、故人が自分に語り掛けてくれるであろう言葉を胸に持ち、焼香の煙に乗せて返事を返すこと⑤式後に、葬儀社のスタッフや司会者、参列者から感想やアドバイスをもらい、独りよがりにならないよう気を付ける一などです。

ある葬儀の後、外で出棺を待っているとき、司会者の方が泣きながら走って来られました。理由を尋ねると、「先日、父の葬儀を行いました。でも親族席にいた私は、葬儀の司会の仕事をしているにもかかわらず、和尚さんが父に何をしてくれているのかわかりませんでした。だから、葬儀で父のために何もしてあげられなかったことがつらくて、ずっと自分を責めていました。でも今日の葬儀の司会をさせてもらって、あの時のあの作法は、父が仏になるためのお手伝いができていたんだと分かって、司会をしながら涙が出ました。ありがとうございました」と言われました。

大切な方の死を受け止め、残された方々がそこからの一歩を踏み出すためには、故人にしっかり思いや祈りを伝えたという実感が大切だと思います。もしそれをおろそかにするなら、「葬儀にお坊さんはいらない」と言われる時代がやってくるかもしれません。(琴浦町)

黒住教を学びに行ってきました。

清元院のある以西地区にも黒住教を信仰している方がいます。身近にあるけどよく知らない黒住教。学んでおかなければと思います。私がかつて席を置いた「未来の住職塾」の一泊研修に参加してきました。

《8月22日》

岡山市の神道山(広大な山全体が信仰の対象)にある黒住教総本部に集合し、中心の大教殿に参拝。その後、



教主 黒住宗道さまから直々に黒住教の教えについてお話しいただきました。



・〇くろずみ ×くろずみ
・江戸時代後期に岡山藩の神官
・黒住宗忠が開いた神道。
・昇る朝日を拝む「日拝(にっぱい)」の宗教。

・日の出を拝み、感謝と感動の心で誠を尽くす「まること」の心で生きること努める。
朝日を拝み、朝日からエネルギーを頂いて、今、生きている人が少しでもよい生き方ができるように…との教えであることを丁寧に話していただきました。

《8月23日》

朝日が出る一時間ほど前、まだ暗いうちに、日の出を拝む日拝所に向かう。明るくなり始めた頃から



お勤めが始まりました。今日の日の出の方向に向かって祈り、日の出の瞬間に朝日を体に取り込む(飲み込む)作法を行いました。日拝後は、大教殿でもう一度お勤めしました。



朝食後は、次の教主である黒住宗芳さんと、ワークショップを行い、僧侶と神官の垣根を越えて黒住教の未来について活発に意見交換をしました。

黒住教も仏教も、生きている人の幸せのために布教教化し、共に宗教離れを大きな課題として、教会所やお寺の存続・発展に知恵を絞り行動する、志を同じくする宗教者あることを学びました。

黒住教が身近になりました！



活動紹介⑤ 『お地蔵様作り教室』 (年2回：春・秋彼岸)

令和5年は、3/19(日)・9/16(土)

あなたの願いを込めた、世界に一つだけのお地蔵様。めざせ六地蔵！

清元院で人気 NO.1 のイベントです。講師は倉吉八幡窯：小原雅也先生。底抜けに明るい小原先生と楽しく易しく、あなただけのオリジナルお地蔵様を作ります。県内全域のみならず県外からも参加があります。

- ①お経を唱え本尊様にごあいさつ ②作り方説明 ③製作(1人1体) ④完成後お寺カフェ
⑤先生が持ち帰り、乾燥→素焼き→色付け→本焼き→完成 ⑥4ヶ月後に出来上がり→ご連絡

3/19(日)・9/16(土)とも…

①午前の部 9:30～ ②午後の部 13:30～

■①②とも先着 20 名 ■参加費 2,200 円(実費)



声こえ

今までお寺の住職さんから、法話以外の話を聞く機会がなかったので清元院住職の話は非常に新鮮でした。伝統と革新、そして檀家さんへの思いがこもった取り組みをされていて、寺・住職のイメージが良い方になりました。

(ことうら熱中小学校 講演参加者)

「大切な人を亡くした人のための権利条約」というものを友達に住職からいただいたきました。それを友達がコピーして私にくれました。読んでみると、私のことだと思って涙が出ました。私が自分の人生を歩んでいくこと、楽しむこと。それが亡くなったあの人と共に生きて行くことだと思いました。

(写経写仏切り仏の会参加者)

最近、我が子に対してやり込めて、怒ってばかりでした。ここに来る前も忙しいのに「お母さん見て見て！」とせがまれ、怒ってしまいました。我が子もいつかは必ず巣立っていきまします。和尚さんの話にあった、優しさの貯金をたくさん貯めてあげたいです。

(鴨川中学校区)

人権教育講演会参加者)

のんのんさま④

元気な子どもたちを紹介
かがやく宝ほとけの子



(右) 琥汰郎くん (11歳)

(左) 結華さん (10歳)

琴浦町赤碕金屋

中原浩之さん、佳央里さんのお子さん。

《お父さん・お母さんより》

長男・琥汰郎が11歳、長女・結華が10歳になりましたが、親になった時のことは、今でもつい最近のことのようによく覚えています。この11年で子どもたちと共に父母としても成長することができました。

子どもたちも、それぞれに思いや考えがあり、衝突することもありますがお互いに思いやり、尊重し合える兄妹であって欲しいと願っています。

私たちの子どもに生まれてきてくれて、ありがとう ❤️

お知らせ&Events

2/14 涅槃会法要へどうぞ

■2月14日(火)10時から

翌日は、お釈迦さまの命日です。お釈迦さまの残してください。お釈迦さまの教えに感謝し、自分の生き方を振り返る日です。30分ほどで終わります。梅花講のご詠歌も聞けますよ。どうぞ皆様気軽においでください。

2/26 「ととのう」
坐禅×サウナ

■会場：清元院

■詳細は未定

熱波師の世界大会で、アジア人初のフリースタイル3位になり今話題の「五塔熱子さん」と清元院がコラボ！

「ととのう」をキーワードに、坐禅で心を調え、テントサウナで体を整え、心も体もすっきり癒されるイベントです。詳細はホームページ・Facebookなどでお知らせします。



3/11 大般若法要へどうぞ

■3月11日(土)10時から

「大般若法要」を行います。大般若経の功德と秋葉さんの力で、檀家や信徒のみなさんの安心と健康・諸願成就を祈禱する法要です。

■終了後11時から「落語会」

桂小文吾改め、上方落語「六代目桂文吾」襲名後、初の清元院での高座です。お楽しみください！落語だけの参加もOKです。



3/26 はすとも 大募集

■3月26日(日)午後1時半から

桜の花が咲く頃、ハスの蓮根を植え替えます。全部で50鉢です。で、住職一人では大変です。

そこで蓮友(はすとも)を募集し、みなさんと一緒に蓮を植え、育て、花を楽しみたいと思います。お手伝いいただいた方には蓮根をおすそ分けします。

みなさん「はすとも」に参加して蓮を楽しみませんか！

(※汚れてもよい服装で)

令和4年 清元院で
お寺体験された方々

坐禅会	のべ38人
写経写仏切仏の会	のべ12人
お寺ヨガ	のべ4人
お地藏様作り教室	のべ66人
六尾いきいきサロン	21人
琴浦高齢者クラブ	20人
中部につこりの会	20人
宝林寺護持会役員	20人
北栄町終活連続講座	15人
琴浦町寿大学	40人
菩提の会	8人
鳥取中央育英高校	15人
船上小学校1年生	20人

ご報告

平成30年12月から4年間、月・木に勤務していた「曹洞宗鳥取県宗務所」の任を令和4年12月10日で無事に終えました。皆様のご理解に感謝し、ご報告します。

ホームページ
作りました!!

- 各種行事の情報
 - 清元院の紹介/取組み
 - 法要の申込み/問い合わせ
- ぜひ一度、のぞいてみてくださいね！
※情報はこのページの↓↓

◆四月までの行事予定

- ◇1月1〜3日 三朝祈願
- ◇2月14日 涅槃会10時
- ◇3月11日 大般若法要10時
- ※終了後11時「落語会」
- ◇3月19日 お地藏様作り教室
- ※①午前9時半 ②午後1時半
- ◇3月21日 彼岸会先祖供養
- ◇3月26日 蓮の植え替え (午後1時半)
- ◇4月8日 花まつり (午前10時)

◆月例行事

- ◇写経写仏の会
 - ・第1日曜 午後3時
 - ※1月は都合により第2日曜
- ◇坐禅会
 - ・第3水曜 午後7時30分
 - ※1月は都合により第2水曜
- ◇お寺ヨガ
 - ・第4水曜 午後7時30分

◆令和5年 年回表

- | | |
|-------|--------|
| 一周忌 | 令和四年 |
| 三回忌 | 令和三年 |
| 七回忌 | 平成二十九年 |
| 十三回忌 | 平成二十三年 |
| 十七回忌 | 平成十九年 |
| 二十五回忌 | 平成十一年 |
| 三十三回忌 | 平成三年 |
| 五十回忌 | 昭和四十九年 |



清元院

住職 井上 英之

〒689-2522 鳥取県東伯郡琴浦町宮木 57

Tel.0858-55-7063 fax 0858-55-7064

メール inotera1@gmail.com

facebook :井上英之 清元院

清元院 琴浦

検索



清元院 HP